

2016年度を振り返って

新年度を迎えた4月、生田キャンパスには桜が咲き誇り、たくさんの新入生がやってきました。登戸研究所資料館も開館後8年目を迎えます。そこで昨年度に行った事業などを振り返ります。

来館者数

2016年度の来館者数は「戦後70年」の翌年ということで若干落ち込んだスタートとなりました。しかし下半期の企画展や証言会などの効果で最終的に盛り返し、延べ7,500名以上のお客様をお迎えしました。とくに3月2日に朝日新聞で取り上げていただいた直後には見学会予約があつという間に埋まるほどで（お待ちいただいているお客様、お待たせし申し訳ございません!）、2010年の開館時以来の注目度に当館職員一同嬉しい悲鳴を上げています。

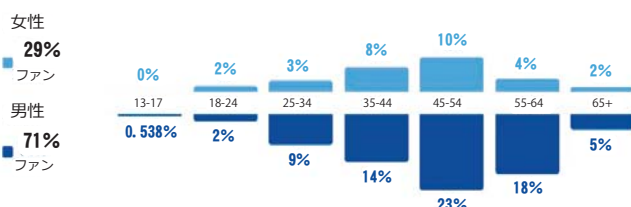
企画展『『登戸』再発見』の反響

『『登戸』再発見 一建物と地域から追う登戸研究所一』を11月～3月に開催、期間中は2,659名が来館されました（→詳細は本紙2頁）。「生田にあるのになぜ『『登戸』研究所』と呼ばれたのか長年の疑問が解けた」、「古い建物の写真が懐かしい」などの感想をいただきました。関連イベントのひとつ「元登戸研究所所員による証言会」はかつてないほどの大盛況、初の試みとして登戸研究所の史跡を巡るスタンプラリーも開催。どちらも大好評のイベントとなりました。企画展の展示記録は当館ウェブページにて近日公開、また9月発行予定の『館報』第3号にも掲載します。

Facebook から見える当館のファン層

下の図は、当館のFacebookページに「いいね！」

このページへのいいね！



をしてくださった方の性別・年代の分布図です。最も多く支持して下さっている層は「45-54歳の男性」ということがわかります。SNS利用者層は実際のご来館者層よりも若干低くなっているように感じられますが、現場での肌感覚としても、当館の認知度は幅広い層で順調に高まっているように感じられます。今後は「若い女性」の皆様にも多くの関心をもっていただけるような活動も行っていきたいと考えています。

ご意見交換ボードの設置

多様な意見に触れやすくすることで、来館者の方それぞれの考えを一層深められる「平和教育」の場になりたい、という思いから11月よりご意見交換ボードを設置しました。科学技術の「デュアルユース」問題と過去の登戸研究所とを絡めて警鐘を鳴らすコメント、今では本当に貴重になった戦争体験者の方からのご意見、将来を担う若い方からの新しい視点…職員が目線からみても本当に勉強になります。ご来館の際には是非お立ち寄りください。（椎名記）



館内のご意見交換ボードコーナー。コメントをボードに貼るだけでなく、イネ!と思った意見にはシールを貼ることができます。

新コーナーのご紹介

『渡辺先生斯く語りき 第一回』



『登戸研究所の秘密保持のための仕組み』2頁

登戸研究所研究の第一人者である渡辺賢二先生に、四半世紀以上にわたる調査の「秘話」を語っていただきます。お話をうかがうのは、まさかの

〇〇!? どうぞお楽しみに!

・・・企画展関連イベントのご報告・・・

企画展開催期間中、様々なイベントを開催しました。ここでは、その様子をご紹介します。

企画展講演会・解説会



解説会の様子：展示解説をする館長 山田朗

当館長が近代軍事史の観点から企画展を解説する講演会を11月に開催しました。また、1月と2月には、

展示物を前に企画展の見どころを紹介する解説会を行いました。参加人数は併せて146名。終了後には多くの質問が寄せられ、参加者の登戸研究所への高い関心がうかがわれました。

証言会「登戸研究所で働いていた人に聞く 登戸研究所の姿—15歳の戦争—」

3月には太田圓次氏・岸井三治氏の2名をお招きし、証言会を開催しました。当日は200名を超える来場者があり、大盛況でした。

太田氏は1943年、岸井氏は1944年より登戸研究所に勤務しました。太田氏からは、風船爆弾試射



現場の様子や、第二科で風船爆弾用気球の自爆用爆薬の研究開発にたずさわったこと、第三科で働いていた
当時を振り返る太田氏（左）と岸井氏（右）岸井氏からは、偽札用紙を製造する設備や、戦後の偽札証拠隠滅作業についてお話しいただきました。お二人とも、当時は高等小学校を卒業したばかりの15歳。会場で紹介した写真に写る当時の岸井氏の姿にはあどけなさも残り、子どもが登戸研究所の研究を支えていたという事実に会場からは驚きの声があがりました。

スタンプラリー「登戸研究所の史跡 探検！ラリー」

当館初のスタンプラリー。期間中、700名を超える参加がありました。「キャンパス内にこんなに史跡があったなんて」と感想を述べる在学生も。登戸研究所史跡の存在を伝えるきっかけとなりました。(塚本記)



渡辺先生^か斯く語りき



第一回

登戸研究所の秘密保持のための仕組み

このコーナーでは、資料館の非公式看板猫ふみふみちゃん^かが、渡辺賢二先生から、これまでの著書ではまだ取り上げられていない、四半世紀以上にわたる調査の秘話を聞いてくれます。もしかしたら、ちょっとすごいお話が飛び出すかもしれませんよ。

ふみふみちゃん（以下^ふ）「渡辺先生こんにちは。」

渡辺賢二先生（以下^わ）「はいこんにちは。」

^ふ「先生、資料館のそばで会うと、いつも撫でたり、話しかけてくれてありがとう。」

^わ「どういたしまして。」

^ふ「資料館のお客様にもかわいがってもらっています。私、まるで資料館の看板猫みたいよね。だから登戸研究所のこと、もっと知りたいの。」

^わ「では、はじめての今回は何を話ししましょうか。」

^ふ「登戸研究所といえば秘密、秘密といえば登戸研究所、という感じがするわ。そうね、登戸研究所が秘密を守るためにしていたことを教えてください。」

^わ「互いに仕事内容を一切話してはいけない、という教育を受けたとか、他の班の人たちと極力交流を持

たないように、慰問に来たエンタツアチャコの漫才や歌手の二葉百合子などをわざわざ班ごとで見た、といったことを元勤務員の方々から聞きました。」

^ふ「当時の大スターも登戸研究所のために何回も興行したのかしらね。戦時中の軍の力は絶大ね。」

^わ「秘密保持の方法は徹底されていました。食事も、少年工員が班員の分をバケツで炊事場へ取りに行って、それぞれの仕事場所で食べていたとか。」

^ふ「登戸研究所がどんなに細かい所でも秘密を洩らさないように気を付けていたことがよくわかりました。先生、どうもありがとうございます。」

^わ「まだ本に書ききれない話がほかにもたくさんありますよ。楽しみにしててくださいね。」

（第一回 おわり）（椎名記）



シリーズ Q&A

第十一回 「状況申告」から何がわかる？

昭和十七年度ニ於ケル豫算ノ概要次ノ如シ

研究費	2,150,000 圓
製造費	1,000,000 圓
同種費	1,000,000 圓
製品費	1,000,000 圓
合計	6,790,000 圓

註 製品費ハ陸軍省防衛課關係委託物件ニ關スルニ

資料1「状況申告」11-12頁 (当館所蔵)

第一展示室で展示中の「状況申告」とは、登戸研究所が上部機関に提出した報告書です。これは同研究所が残した数少ない公文書であり、当館以外では見る事ができない大変貴重な資料です。今回はこの資料より、登戸研究所の予算について紹介します。

「状況申告」11～12頁には、1942年度の同研究所の予算は、研究費・研究施設費・製造費・需品費あ

わせて679万円とあります(資料1参照)。この額は、他の陸軍技術研究所と比べると破格の予算額でした。表1(右)で示す通り、登戸研究所の予算額は、他の技術研究所の予算150万～250万円程度に比べ2倍以上です。これだけ差があったのは、同研究所は他の技術研究所と異なり、兵器の製造も担っていたからだと考えられます。極めて機密度が高い兵器を研究開発したため、製造部門が必要だったのです。現に、同研究所の予算額60%に相当する410万円が製造費に充てられています。

また、「状況申告」11頁には「他の技術研究所と異なり、特に秘密を要する購買契約は、金額に関係

なく登戸研究所独自で実施してよい」とあり、他の研究所に比べ、同研究所は予算面でかなり優遇されていた様子が見えます。

以上、今回は「状況申告」を紹介しました。この資料の複製は、第一展示室でどなたでも自由に手に取って読むことができます。登戸研究所の活動を今に伝える重要な資料ですので、ご来館の際はぜひご覧ください。(塚本記)

表1 各技術研究所予算比較表

	予算額	備考
第一陸軍技術研究所	258万円	1942年度
第二陸軍技術研究所	190万円	1942年度 / 資料には「前年度繰り越し分と併せて約190万円」とある
第三陸軍技術研究所	245万円	1945年度
第四陸軍技術研究所	250万円	1945年度
第五陸軍技術研究所	202万円	1942年度
第六陸軍技術研究所	150万円	1942年度
第七陸軍技術研究所	247万円	1942年度
第八陸軍技術研究所	73万円	1942年度
第九陸軍技術研究所	679万円	1942年度 / 登戸研究所のこと

※1942年時の銀行員(第一銀行)初任給70～75円(現在は約20万円)、映画館入館料0.8円(現在は1,800円)。

〔第一、第二、第五～第九技術研究所「状況申告」(第九陸軍技術研究所発行のみ当館所蔵、その他防衛省防衛研究所所蔵)、陸軍兵器行政本部「陸軍技術研究所之部」昭和20年8月31日(陸軍省『研究機関二関スル資料(含技術資料)』昭和20年9月20日、防衛省防衛研究所所蔵)より作成〕

〔参考文献〕沢井実「太平洋戦争期における陸軍の研究開発体制構想：陸軍兵器行政本部技術部の活動を中心に」(大阪大学『大阪大学経済学』Vol.58, No.4, 2009年)、週刊朝日編『値段史年表-明治・大正・昭和-』(朝日新聞社, 1988年)

・・・大学生、中学生が“一日学芸員”に！博物館実習・職場体験・・・

2016年度は、当大学農学部の博物館実習生3名と、川崎市内の中学校3校からの職場体験生6名を受け入れました。展示の補修などお客様の目の届く場所だけでなく、バックヤードでの資料整理、温湿度管理、展示物に害を及ぼす虫や菌の検査など裏方の仕事まで、あらゆる資料館業務に挑戦しました。初めての業務に最初は苦戦することもありましたが、慣れたころには和気あいあいと作業をする様子も見られ、楽しみながら学んでいただくことができました。とりわけ、ある体験生たちが作成した「ワークシート おてがるバージョン」は職員が驚くほどの完成度の高さで出来上が

り、ほぼ手を加えずに採用しています。来館時には、是非、挑戦してみてください。

このように、登戸研究所資料館は資料の保存や展示だけでなく、様々な形で学内や地域の皆様へ貢献できるよう努めています。(椎名記)



展示資料のキャプションを作ってくれた川崎市生田中学校2年生の阿部さん(左)と加賀さん

資料館からのお知らせ

5/18
国際博物館
の日記念

ホンモノの偽札を見よう

入場無料

2017年4月26日(水)～6月3日(土)

5月18日国際博物館の日を記念して、旧日本陸軍登戸研究所でつくられていた偽札の原本(ホンモノ)を展示します。通常は複製を展示していますが、期間中のみホンモノの偽札を見ることができます。展示期間中は「偽札鑑定人になれる!? 解説シート」をプレゼント。5月6日(土)には館長 山田朗による「陸軍登戸研究所で製造していた偽札」解説会も開催します。

【解説会】 5月6日(土) ① 11時～ ② 13時～ ③ 14時～

解説：山田朗(館長) 所要時間：30分 定員：各回25名(要申込)

見学会(2017年4月～9月) 事前予約制・各回定員25名・参加費無料・所要約2時間半(途中退出可)

~~4月22日(土) 渡辺賢二~~ : 7月8日(土) 山田朗
~~5月13日(土) 山田朗~~ : 7月29日(土) 渡辺賢二
~~5月20日(土) 渡辺賢二~~ : 8月19日(土) 山田朗
~~5月27日(土) 山田朗~~ : 8月26日(土) 渡辺賢二
6月17日(土) 山田朗 : 9月9日(土) 山田朗
~~6月24日(土) 渡辺賢二~~ : 9月30日(土) 渡辺賢二

*赤線—の日はすでに定員となっています。

13時 生田キャンパス中央校舎1階ロビー集合

生田キャンパス内史跡・ビデオ鑑賞・資料館展示を、館長 山田朗または登戸研究所研究の第一人者 渡辺賢二がご案内します。

事前予約制です。お申し込みは電話、FAX、Eメールで受け付けております。お申し込みには希望日・お名前・人数・代表者連絡先(携帯電話番号等)をお知らせください(Eメールで申込の場合は本文中にEメールアドレスを明記)。

自家用車でのご来館はご遠慮ください。お身体が不自由な方・団体の貸切バス等で駐車場利用希望の場合は、予約時に必ずご相談ください。

10名以上の団体でお申込みの場合はご相談ください。人数に関わらず、ご希望日時で職員ガイド付見学を実施可能です(要事前予約)。社会科見学・平和学習・ゼミなどの授業の一環としてご利用ください。

2017年度臨時開館・閉館予定 最新情報は事前に当館webサイト・SNS等でご確認ください。

臨時開館

8月8日(火) オープンキャンパス
11月26日(日) 生明祭(学園祭)

臨時閉館

8月10日(木)・8月12日(土) メンテナンス
1月13日(土)・2月7日(水) 入学試験

年末年始閉館

2017年12月24日(日)～2018年1月9日(火)

☆☆生田キャンパス(農・理工学部) イベント案内☆☆

8/8(火)・8/9(水) オープンキャンパス

11/24(金)～11/26(日) 生明祭(学園祭)

一般の方もご来場いただけます。資料館でも展示解説などのイベントを開催予定です。詳細は明治大学または資料館のwebサイトをご覧ください。

2017年3月31日現在の累計来館者数は54,340名です

編集・発行：明治大学平和教育登戸研究所資料館

発行日：2017年4月19日

〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1

明治大学生田キャンパス

TEL/FAX：044-934-7993

E-mail：noborito@mics.meiji.ac.jp

URL：http://www.meiji.ac.jp/noborito/index.html

twitter  https://twitter.com/meiji_noborito

facebook  https://www.facebook.com/Noboritoshiryoukan

「利用案内」

開館日：水曜日～土曜日(日・月・火 閉館)

開館時間：午前10時～午後4時

入館料：無料

*臨時に開閉館する場合があります。ご確認ください。

●10名以上の団体見学は1か月前までに電話またはメールにてご予約をお願いします。団体で日曜日に見学希望の場合は事前にご相談ください。

●ゼミ・クラス・クラブ単位での団体見学も承っております。平和教育・歴史教育・科学教育の一助としてぜひご利用ください。